

■■■ グループホーム ハナ 1周年を迎えて ■■■

さる7月13日午前11時から、在日本大韓国民団の五階で、KFC主催で、グループホームハナ開設一周年記念セレモニーが盛大に行われました。11時から始まった式典では、主催者側から金理事長の挨拶から始まり、韓国民団兵庫県本部団長、駐神戸大韓民国総領事館、副総領事の来賓挨拶がありました。スタッフの誘導でグループホームハナに入所されている利用者さん、デイサービスハナを利用している利用者さんの合流があり会場は一段と盛り上がってきました。朝早くから食事の準備に取り掛かってくださった方々の協力で、テーブルには数々の韓国料理にベトナムの春巻き、中国の水餃子が並び、テーブルを眺めるだけでも、国際色で彩られていました。食事をしながら舞台では、韓国婦人会のコーラス、利用者の家族による二胡と中国琵琶の演奏、職員によるヴァイオリン演奏、90歳の男性の腹話術、30~40人からなる中国残留邦人のヤンコ踊りは会場を一つにしました。チャンゴ演奏で会場をしめ、楽しい一時を過ごしました。一日を通してご家族の方々、長田区医師会長に運営推進会議のメンバーの方々、グループホームに関わって下さった方々が少しの時間を割いて顔を出してくださいました。この記念セレモニーは翌日の神戸新聞に大きく報道されました。熱い一日でした。(施設長 山根香代子)

2013年7月1日で無事開所1周年を迎えることになりました。

開所の準備段階から様々な業務に携わってきた私にとっては、感慨深いものがありました。

開所に向けて、寒い時期でのパンフレット配布や備品等の準備など、たくさんの方々のお力で準備が順調に出来たと思っています。

開所時、職員が国籍が異なる上、ほぼ全員が、施設経験が無く、まして資格を取得したばかりの方も多くいました。そんな状況の中で、開所を迎え、利用者様が次々と入居され、スタートした次第でした。

24時間体制の中で、どのように業務をこなしていけば良いのか、よくわからなかったと思います。個々の利用者に対して、限られた情報の中で、今までどの様な人生を歩んで来られた方なのか、そして性格などもしっかりと把握する事が出来るまでにはやはり時間がかかりますので、まずどのようにして接していくのか、職員は皆悩んだと思います。

介護経験のない職員にとっては、手探り状態で業務をこなし、職員それぞれが努力してきた1年だったと思います。それ故、ご利用者様にご満足いただけるケアが出来なかったのではないかと考えてしまいます。

基本、利用者様には、「認知症」という病気があるので、毎日落ち着いた生活が出来るわけではありません。何をきっかけに、不穏状態になるのかを、なかなか予測できません。私自身も、経験不足や知識不足から、どの様にして、お声をかければいいのか、実際とっさに、行動出来なかった事も多々有り、反省しています。

職員間で、ご利用者様の日々の情報を共有していくことが、どんなに大事な事なのか、しっかりと情報を把握する事で、未然に事故等を防ぐことに繋がると思っています。

施設長をリーダーとした、色々な勉強会もとても勉強になりました。

また、職員同士、国籍が異なるので、言葉の違いや習慣の違いから、意思疎通が難しかったりするのを感じています。でも皆まずはご利用者様の事を大事に考えている事だけは、同じです。

これからも、日々努力し、反省し、一生懸命頑張ってゆきたいと思っています。（2Fフロアリーダー 金松 恵）

◆「多文化共生」を考える研修会2013を開催しました！

第13回目となる上記研修会を8月19日～26日のうちの4日間、開催しました。延べ345名の参加がありました。

そのうちの2コマの講演についてニュース係から報告させていただきます。

KFC主催の「多文化共生」を考える研修会が今年も4回にわたって開催され、二日目の講演を聴講しました。約80人が熱心に耳を傾けていました。

中国残留孤児、中国残留婦人についての話でした。これらに関するニュースは最近少なく、もう過去の出来事のように思っていました。

中国残留孤児として生き、歴史に翻弄され言葉では語りつくせない辛苦な人生を送って来た奥山イク子さんの話は身につまされる思いでした。突然のソ連軍の侵攻、中国人の逆襲、飢えと寒さの逃避行、家族5人がバラバラ、中国人に預けられる、ハルピン、長春、天津とさまよう生活、中国での45年間、60歳で帰国するが日本語が話せなかったのです。

戦後68年過ぎた今日においても多くの問題を抱えています。残留孤児本人への援助はありますが、その配偶者(中国人)の生活支援はありません。高齢化が進み病人が急増し、介護と医療通訳が必要。一世は日本語がわからないが、逆に二世、三世になるに従って中国語が話せず意思の疎通に欠けるなどです。

戦争によって生まれた孤児たちは、中国では日本人だと後ろ指さされ、日本では日本語が話せず、生活習慣も異なり蔑視されています。中国で捨てられ、日本で捨てられ孤立する状況は今も続いています。彼ら自身の責任ではありません。戦後直ちに対応せずに、放置され国に遺棄された孤児です。

最近近隣諸国との関係が悪化しています。私たちはこの事実を共有し忘れてはなりません。戦争がもたらした悲劇、悲惨な戦争を二度と繰り返してはなりません。（吉村 晴夫）

3日目の8月23日（金）のテーマ【外国人の子どもの教育】の中で、兵庫県立大学経済学部野津隆志教授の「多文化共生のための教育－日本、タイ、韓国の現状と課題」という講演がありました。75名という多数の出席者でした。

アジアの中のタイ、韓国、日本という3つの国は、それぞれが単一民族の国家でありながら多文化共生ということで共通の現状と課題を持っています。共通の現状として、出生率の低下による人口の減少、高齢化、外国人労働者の増加などがあります。出生率（2009年）は、タイ1.8%、韓国1.1%、日本1.3%という現状であり、65歳以上の高齢化率（2010年）は、タイ8.9%、韓国11.1%、日本23.0%ですが、47年先の2060年にはタイ26%、韓国33%、日本40%と急激な増加が予想されています。このような現状を踏まえ、今後とも経済成長を実現し、活力のある経済社会システムを維持するために外国人材の受け入れや定着のための取り組みが進められています。この結果、外国人労働者の数は、タイでは労働力人口の9%の約113万人、韓国では労働力人口の3%の79万人、日本では労働力人口の1%の68万人となっています。それぞれの数値は、我々がふだん考えていた数値をはるかに上回る数値となっています。

このような現状から、21世紀の課題として多文化教育が挙げられていますが、同時に福祉の充実も必要とされています。外国人児童の教育の課題としては、学校に入れるための学校・学習セ

ンターへの就学のアクセス課題、学校へ入った後の言語学習・カリキュラム・多文化教育などの教育内容課題、学校から出る時の進学・就職の進路課題があり、福祉の課題としては、人身売買・性搾取・児童労働・ストリートチルドレン・経済援助・国籍・人権尊重などへの対応が挙げられます。

これらの課題に対する各国の取り組みの状況の説明がありましたが、多文化児童・家族への支援の共通点としては、NGO/NPO・市民団体の活動の重要性、子どもの人権保障という共通の視点・理念の共有化、子供の権利条約の批准、ネットワーク作りが挙げられます。兵庫県での種々の多文化共生への取り組みの紹介の中で、ネットワーク支援の先進事例として南あわじ市があり、学校・教育委員会・日本語サークル・国際交流協会・企業・他市の学校及び教育委員会とのネットワーク作りが紹介されました。

日本と厳しい経済競争をしている韓国、安い労働力を目的として国外製造拠点となっているタイが日本と同じような問題を抱えており、多文化共生という共通の課題に取り組んでいる現状が理解できました。（川淵 啓司）

■■■KFC日本語プロジェクト■■■

◆学習者から

今回は、日曜日にシューズプラザで学習しているインド出身のマニッシュ シャラマさんに「日本の生活」について書いてもらいました。

世界中から輸入したスパイスをレストランなどに卸しているお仕事だということです。

会議にもっと積極的に参加する、同僚とのコミュニケーションの能力を高めるという目標をもって学習に取り組んでいます。明るくさわやかな好青年です。

◆日本の生活

みなさん、こんにちは。わたしの名前はマニッシュです。3年前に日本にきました。東京で日本語の学校に行きました。日本語学校で日本の生活もいろいろ勉強しました。

日本でいろいろ旅行に行きました。箱根がいちばんおもしろかったです。東京ではじめて営業の仕事をしました。営業のとき、いろいろな場所へ行きました。いろいろなお客さんに会いました。2年、東京で仕事をしました。

ことし1月に東京から神戸へひっこしました。新しい仕事も営業の仕事です。神戸ではじめて焼肉を食べました。おいしかったです。

私の会社の日本人は親切です。いつも私が困っているとき手伝います。営業でいろいろ行きますが、京都のまちはいちばんきれいです。

東京と神戸と比べると、東京の方がお客さんはやさしいですが、関西のお客さんはちょっときびしいです。東京の会社は土曜日と日曜日が休みだったので、よく遊びにも行きました。今の会社は日曜日だけが休みなので、疲れて遊びにあまり行きません。

◆第1回のどじまん大会の報告

8月3日(土曜日)午後2時からデイサービスセンターハナの会で、第1回ののど自慢大会が行われました。8人の利用者さんとスタッフたちも加わり合計15名の人たちが自慢ののどを披露しました。

まず、いつも歌を歌っているという利用者さんの「神田川」から始まりました。その歌にはその方の東京での思い出が感じられるようで、カラオケ採点は84点と、上々のすべり出しでした。その後はカラオケの歌詞を一生懸命に見ながら歌う人、参加者みんなの手拍子で歌う人、プロ顔

まけに上手に歌う人など、カラオケのボリュームと一緒に参加者みんなの気持ちも盛り上がっていきました。終盤には金理事長、フフさん、スタッフたちのサプライズエントリーもあり最後まで元気な手拍子と歌声が響いていました。そしてカラオケ点数の採点から1位から3位までには賞品が、そのほかの人たちにも参加賞が手渡されました。

普段はあまり表情を見せないという利用者さんも生き生きとした表情を見せ、皆でいっしょに歌を歌うことは元気になる活力の基になります。夏まつ盛りの暑い日でしたが、暑さも忘れる楽しい時間を過ごすことができました。(水曜日午前クラス 後藤 ひろ子)

■■■ K F C 外国にルーツを持つ子どもの学習支援 ■■■

◆ K F C 子ども夏の交流会

8月1日(木)に子どもの学習支援事業の交流会を開催しました。この日は朝からとてもいい天気で、9時半に集合した後は、みんなで荷物をもって、長田にある神戸市立地域人材支援センター(旧二葉小学校)へ向かいました。午前中のスポーツ大会に加えて、午後からは、そうめんとシャーベットを自分たちで調理して食べました。子ども25人、スタッフ8人、総勢33人という、盛大な交流会となりました。

カンカン照りの太陽に負けにくいぐらいの元気な子どもたちは、外でおにごっこをしたり、サッカーをしたり、セミ取りをしたり、おとなも子どももみんな汗をいっぱいかいて、遊びました。講堂では、バドミントンや卓球、約20人でチャレンジした大縄跳び大会では、8回という最高記録が樹立されました!

12時からは午後からの調理に向けて、中学生を中心に材料の買出しに向かいました。しっかり者の中学生たちが、小学生を引き連れて出発!きちんと予算内で、人数分を買うことができました。

満員の調理室でも、そうめんの薬味を手際よく切ったり、率先してたっぷりのお湯が入った鍋を移動させてくれる中学生、小学校高学年のお兄さん、お姉さんたちは、ひときわ頼もしく見えました。こういったお兄さん、お姉さんの姿から実際に学んだことを、低学年の子どもたちが、来年入ってくる新しい小学校1年生にしてあげられるよう、期待しています。

今年度の交流会は、スタッフだけでなく、子どもたち自身も企画や運営に協力して、学習支援に関わる人が協同でつくる交流会を目指しました。主には中学校1年生の男女6人が企画、運営を行いました。交流会の内容のアイデアを出したり、さまざまな条件から利用する施設、日程を考えたりと、2ヶ月以上前からミーティングを重ねました。忙しい部活動の合間をぬって参加した中学生もいて、すべての司会、調理の手順説明に至るまで、大活躍でした。

運営をサポートして下さった支援者のみなさま、楽しい交流会を企画・運営してくれた中学1年生のみなさん、本当にありがとうございました!(藪田 直子)

■■■ KFC中国帰国者支援事業 ■■■

◆ 音楽会～「我愛、中国！」

8月6日(火)11時～12時、中国帰国者交流会では音楽会～「我愛、中国！」が開催されました。厳しい暑さの中、いつもの交流会会場の地域人材支援センターまで演奏に来て下さったのは、中国の民族楽器「フルス」等を用いた中国音楽演奏で御活躍されている濱寄繁一さん、中国音楽に造詣の深い藤浦佐知子さん(声楽家)・文暁鈴さん(ピアノ演奏者)です。参加者は普段の交流会の顔ぶれ(帰国者の方々、ボランティアさん、スタッフ)に、デイサービスセンターハナの会の利用者様3名も加わった40数名。演奏準備中から、会場には中国語の歌を口ずさんだ

り合唱したりする声が響き、和やかで期待に満ちた雰囲気の中、プログラムは始まりました。

前半は、「甜蜜蜜」「月亭代表我的心」「琵琶湖周航の歌」「蘇州夜曲」「在銀色的月光下」「ふるさと」「浜辺の歌」「在那遥 翠涛I地方」「媽媽、我愛」の9曲を、楽器や曲目の説明、演者の方達の活動のご様子等を交えながら演奏して下さいました。美しい歌声や民族楽器の趣きある音色に、会場からは「うまいなー」の感嘆の声が挙がります。続く後半は会場の参加者も一緒に歌う合唱の時間。「上を向いて歩こう」（日本語）、「大海、故郷」「同一首歌」（中国語）を皆で歌い、美しいハーモニーが会場に響き渡ります。そしてこれで終了かと思いきや、先日結婚されたばかりのスタッフのフフさんへ、お祝いのサプライズ演奏が！会場全体で「茉莉花」を合唱し歌のプレゼントです。フフさんが照れながらお礼を言うと、帰国者の方達からはすかさず「フフさんから何か一曲！」の声。最後はフフさんの歌うモンゴルの楽曲で終了となりました。

演奏終了後、帰国者の方からは「中国の素晴らしい音楽をありがとうございました。今後ご活躍されることを願っています。ぜひまた演奏しに来て下さい。」との挨拶があり、また演者の方からは「自分達は中国と中国の音楽が好きでこのような活動を続けています。今日は皆さんと一緒に歌って下さったことが本当に嬉しかったです。」とのご挨拶をいただきました。素晴らしい演奏だけでなく、曲目の選択や構成などにも細やかな心配りをしていただいた演者の方々には心よりお礼申し上げます。また和やかな雰囲気と美しい歌声で音楽会を良いものにして下さった参加者の皆さん、ありがとうございました。（インターン 吉本 直子）

■■■ ハナの会 ■■■

◆ハナの会夏祭り

8月21,23,24日に、デイサービスセンターハナの会の夏祭りが開催されました。

午前中のイベントはボールすくいです。童心に戻って夢中になっている方や、あまり興味を示さない方もいましたが、お祭りの露店の雰囲気を出すことができ、皆様楽しんでいました。

昼食は調理の趙、介護スタッフの鮑が腕によりをかけ、韓国のおろし海苔巻キンパ、日本のいなり寿司を作りました。ある利用者様は「これ、誰が巻いたの？きれい！」と喜んでいました。皆様の「お腹いっぱい」と言う笑顔がとても印象的でした。

21日は銭太鼓の皆様が来て下さり、見慣れない銭太鼓で音楽に合わせて華麗な演技を見せてくれました。スタッフや、職員も銭太鼓のミニチュアを持たしてもらい、指導してもらいながら、音楽に合わせて演奏しました。スタッフや利用者様の習得が早く、銭太鼓の方々もビックリしていました。23日は黄さん親子による演奏でした。お母さんの歌に合わせて、娘さんがチャングを叩く姿がとても微笑ましく、利用者様も最初は座って静かに聴いていましたが、徐々に立ち上がってマイクを持って歌ったり、踊りはじめました。スタッフも楽しそうな利用者様につられて踊りました。24日は中国の利用者様とスタッフがヤンコ踊りを披露してくれました。普段踊らない利用者様もヤンコ踊りを楽しそうに踊っていたのが印象的でした。

3日間通してのイベントとして、スタッフによる炭坑節がありました。炭坑節を踊ることのできるスタッフと利用者様を見習い、皆で輪になって楽しく踊ることができました。

その他、韓国のお餅のおやつ、もぐらたたきなど、普段と違った出し物がたくさんあり、利用者様とスタッフが一緒に楽しんでいたのがとても良かったです。

利用者様の高齢化や年齢差、多国籍化などいろいろな問題がありますが、利用者様それぞれが楽しめるようなイベントを今後も考えて実行していきたいと思っております。利用者様の楽しい夏の思い出の1ページになっていければ幸いです。（林 夏美）

■■■ 今後の予定 ■■■

■外国人保護者のためのお弁当づくり講座

10月6日(日) 於 地域人材支援センター

■進路相談会

10月6日(日) 於 地域人材支援センター

■ヤンコ踊り (KFC帰国者新長田交流会)

9月21日(土) 15:30～ (予定)

於 移情閣

■歌声日本語教室

(日本語P&デイサービスセンターハナの会)

10月5日 (土) 13:00～15:00

11月2日(土) 13:00～15:00